

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年10月12日
【四半期会計期間】	第147期第2四半期（自平成24年6月1日至平成24年8月31日）
【会社名】	松竹株式会社
【英訳名】	Shochiku Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 迫本 淳一
【本店の所在の場所】	東京都中央区築地四丁目1番1号
【電話番号】	03(5550)1552
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 岩崎 敏久
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区築地四丁目1番1号
【電話番号】	03(5550)1552
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 岩崎 敏久
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号） 証券会員制法人福岡証券取引所 （福岡市中央区天神二丁目14番2号） 証券会員制法人札幌証券取引所 （札幌市中央区南一条西五丁目14番地の1）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第146期 第2四半期 連結累計期間	第147期 第2四半期 連結累計期間	第146期
会計期間	自平成23年3月1日 至平成23年8月31日	自平成24年3月1日 至平成24年8月31日	自平成23年3月1日 至平成24年2月29日
売上高(千円)	36,827,768	38,991,437	75,619,130
経常利益又は経常損失() (千円)	249,027	1,229,119	680,112
四半期純利益又は四半期(当期) 純損失()(千円)	2,498,255	1,009,228	3,437,594
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	2,334,273	360,965	2,720,043
純資産額(千円)	64,682,386	64,218,526	64,286,790
総資産額(千円)	173,286,940	173,662,464	171,934,230
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期(当期)純損失 金額()(円)	18.18	7.35	25.02
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	37.42	36.95	37.35
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	200,024	5,057,358	312,942
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	7,679,168	4,061,787	8,795,920
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	4,214,625	1,280,923	4,051,811
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円)	12,286,171	13,796,066	11,519,572

回次	第146期 第2四半期 連結会計期間	第147期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成23年6月1日 至平成23年8月31日	自平成24年6月1日 至平成24年8月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	2.65	9.30

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移について記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 第146期第2四半期連結累計期間及び第146期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額につきましては、1株当たり四半期(当期)純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第147期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
5. 第146期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当企業グループ(当社及び当社の関係会社、以下は同じ。)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において、当企業グループが判断したものであります。

(1)業績

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、震災復興関連需要、企業の設備投資、個人消費等、堅調な国内需要を背景に、緩やかな持ち直しの傾向がみられる一方、歴史的な円高水準の継続、欧州の財政問題や新興国経済停滞等、依然不透明な状況のまま推移しました。

このような状況下、当企業グループはより一層の経営の効率化を図り、積極的な営業活動を展開しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間は、売上高38,991百万円(前年同期比5.9%増)、営業利益1,963百万円(同290.9%増)、経常利益1,229百万円(前年同期は経常損失249百万円)となり、特別利益53百万円、特別損失107百万円を計上し、四半期純利益は、1,009百万円(前年同期は四半期純損失2,498百万円)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(映像関連事業)

映像関連事業におきましては、配給は、邦画3本、洋画1本、アニメ3本、シネマ歌舞伎1本、METライブビューイング4本と、バラエティに富んだ作品を公開しました。春休みには「おかえり、はやぶさ」が厳しい結果となった一方、「ウルトラマンサーガ」は堅調に推移しました。ゴールデンウィーク公開作品「わが母の記」は評価も高く、上半期の収益に貢献しました。

この他に、ODS(非映画デジタルコンテンツ)として、「機動戦士ガンダムUC episode5」「宇宙戦艦ヤマト2199 第一章・第二章」を当社の連結子会社・(株)松竹マルチプレックスシアターズ劇場限定で公開し、好成績を収めました。

興行は、(株)松竹マルチプレックスシアターズ運営の各劇場では、邦画では大ヒットコミックが原作の「テルマエ・ロマエ」、洋画では新シリーズの第1弾「アメイジング・スパイダーマン」等が好成績を収めました。

テレビ制作、映像ソフト、テレビ放映権販売、海外向け作品販売等は堅調に推移しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は22,896百万円(前年同期比1.2%減)、セグメント利益は1,321百万円(同17.5%増)となりました。

(演劇事業)

演劇事業におきましては、新橋演舞場は、6・7月の2ヶ月にわたる二代目市川猿翁・四代目市川猿之助・九代目市川中車襲名披露興行が大きな話題となり、高い収益をあげました。「八月花形歌舞伎」では「伊達の十役」が好評を博し、好成績を収めました。大阪松竹座は、3年目となる「團菊祭五月大歌舞伎」、三代目中村又五郎・四代目中村歌昇襲名披露を行った「七月大歌舞伎」、創立90周年を迎えるOSK日本歌劇団「レビュー春のおどり」を上演したほか、毎年夏・冬の関西ジャニーズjr.公演を春にも上演し、賑わいを呈しました。南座は、坂東玉三郎主演の5月「ふるあめりかに袖はぬらさじ」、6月「坂東玉三郎特別公演」と、並行して2カ月連続で開催した展覧会「歌舞伎ミュージアム『玉三郎“美”の世界展』」の組み合わせが話題を呼び、好成績を収めました。

その他の松竹主催公演は、「平成中村座」は5月末、盛況のうちに昨秋からのロングラン公演を終え、日生劇場で3年目となる「滝沢歌舞伎」も安定した収益をあげました。シアターコクーンでは、コクーン歌舞伎の新作「天日坊」の上演で話題を集め、また震災の影響で2年ぶりの実施となった7月の公文協東コース・中央コースが、各地で好評を博しました。シネマ歌舞伎、METライブビューイング、その他演劇関連事業は、堅調に推移しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は10,326百万円(前年同期比34.5%増)、セグメント利益は212百万円(前年同期はセグメント損失1,323百万円)となりました。

(不動産事業)

不動産賃貸は、新宿松竹会館、築地松竹ビル（ADK松竹スクエア）、大船の松竹ショッピングセンター、新木場倉庫等、更に昨秋ルミネがオープンした有楽町センタービル（マリオン）の稼働が順調に推移し、安定収入に貢献しました。一部ビルでは、賃料減額要求や移転告知に関する交渉が続いておりますが、各ビルとも効率的運営、経費削減に努めることにより、利益を確保しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は3,328百万円（前年同期比1.3%増）、セグメント利益は1,664百万円（同8.7%減）となりました。

(その他)

プログラム・キャラクター商品は、「シャーロック・ホームズ シャドウゲーム」「ダーク・シャドウ」等、邦画・洋画の大作・話題作での売上が好調に推移しました。また一連のアニメ作品については、キャラクター商品の売上も好調で、「宇宙戦艦ヤマト2199 第一章・第二章」「機動戦士ガンダムUC episode5」等が収益に大きく貢献しました。

また、「わが心の歌舞伎座展」（東京）、「モンスター研究所」（大阪）等、盛夏を中心に展開したイベントにて成果を上げました。また「松竹歌舞伎屋本舗」との連動で行った物販イベント「歌舞伎屋本舗職人展2」や様々な洋画グッズを取り揃えた「銀幕本舗」を開催しました。貸衣裳事業、清掃事業は堅調な成績をあげております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,439百万円（前年同期比9.5%減）、セグメント利益は70百万円（同72.1%減）となりました。

(2) 財政状態

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ1,728百万円増加し、173,662百万円となりました。これは主に受取手形及び売掛金や設備が減少したものの、建設仮勘定（責任財産限定対象）が増加した事等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ1,796百万円増加し、109,443百万円となりました。これは主に1年内返済予定の長期借入金（責任財産限定）の増加等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ68百万円減少し、64,218百万円となりました。これは主にその他有価証券評価差額金の減少等によるものであります。

(3) キャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は13,796百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,276百万円の増加となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は5,057百万円（前年同期に使用した資金は200百万円）となりました。これは主として、税金等調整前四半期純利益1,175百万円、減価償却費2,046百万円の計上等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は4,061百万円（前年同期比47.1%減）となりました。これは主として、有形固定資産の取得による支出3,563百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は1,280百万円（前年同期比69.6%減）となりました。これは主として、長期借入金の返済による支出3,550百万円があったものの、長期借入れによる収入1,580百万円、長期借入れ（責任財産限定）による収入3,000百万円等によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当企業グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	300,000,000
計	300,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年8月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成24年10月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	139,378,578	139,378,578	東京証券取引所 市場第一部 大阪証券取引所 " 福岡証券取引所 札幌証券取引所	単元株式数 1,000株
計	139,378,578	139,378,578		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成24年6月1日～ 平成24年8月31日	-	139,378,578	-	33,018,656	-	27,935,563

(6) 【大株主の状況】

平成24年8月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
株式会社歌舞伎座	東京都中央区銀座七丁目15番5号	4,802	3.44
株式会社みずほコーポレート銀行 (常任代理人 資産管理サービス信託 銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 (東京都中央区晴海一丁目8番12号晴海アイ ランド トリトンスクエアオフィスタワーZ 棟)	4,500	3.22
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	4,344	3.11
セコム株式会社	東京都渋谷区神宮前一丁目5番1号	3,700	2.65
三井物産株式会社 (常任代理人 資産管理サービス信託 銀行株式会社)	東京都千代田区大手町一丁目2番1号 (東京都中央区晴海一丁目8番12号晴海アイ ランド トリトンスクエアオフィスタワーZ 棟)	3,700	2.65
清水建設株式会社	東京都中央区京橋二丁目16番1号	3,690	2.64
株式会社大林組	東京都港区港南二丁目15番2号	3,600	2.58
西松建設株式会社	東京都港区虎ノ門一丁目20番10号	3,288	2.35
大成建設株式会社	東京都新宿区西新宿一丁目25番1号	3,104	2.22
株式会社TBSテレビ	東京都港区赤坂五丁目3番6号	2,542	1.82
計	-	37,270	26.74

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,077,000	-	-
	(相互保有株式) 普通株式 148,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 136,876,000	136,876	-
単元未満株式	普通株式 1,277,578	-	-
発行済株式総数	139,378,578	-	-
総株主の議決権	-	136,876	-

(注)「単元未満株式」の中には、当社所有の自己株式974株が含まれております。

【自己株式等】

平成24年8月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 松竹株式会社	東京都中央区築地 四丁目1番1号	1,077,000	-	1,077,000	0.77
(相互保有株式) 松竹音楽出版株式会社	同上	148,000	-	148,000	0.11
計	-	1,225,000	-	1,225,000	0.88

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成24年6月1日から平成24年8月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年3月1日から平成24年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新創監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,844,645	13,721,198
現金及び預金(責任財産限定対象)	2,736,972	2,989,172
信託預金(責任財産限定対象)	3,375,387	3,443,562
受取手形及び売掛金	5,755,141	5,197,673
有価証券	-	300,000
商品及び製品	1,420,720	1,418,182
仕掛品	1,556,412	1,157,471
原材料及び貯蔵品	89,536	84,042
その他	3,729,383	3,324,149
貸倒引当金	20,387	12,082
流動資産合計	30,487,813	31,623,370
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	21,676,868	21,185,529
信託建物(責任財産限定対象)(純額)	13,504,996	13,163,820
設備(純額)	13,708,048	12,913,929
土地	23,610,621	23,610,620
信託土地(責任財産限定対象)	18,751,834	18,751,834
建設仮勘定(責任財産限定対象)	8,348,379	11,103,714
その他(純額)	3,767,918	3,898,548
有形固定資産合計	103,368,666	104,627,997
無形固定資産		
のれん	7,380	5,952
その他	1,694,432	1,848,641
無形固定資産合計	1,701,813	1,854,593
投資その他の資産		
投資有価証券	11,960,724	11,415,793
長期前払費用(責任財産限定対象)	14,664,066	14,517,661
その他	9,856,113	9,733,263
貸倒引当金	127,276	122,692
投資その他の資産合計	36,353,627	35,544,025
固定資産合計	141,424,107	142,026,616
繰延資産	22,309	12,477
資産合計	171,934,230	173,662,464

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,508,047	6,288,463
短期借入金	4,098,000	5,248,000
1年内返済予定の長期借入金	12,161,333	11,477,133
1年内返済予定の長期借入金(責任財産限定)	775,000	28,285,000
未払法人税等	345,862	218,909
賞与引当金	434,091	336,975
その他	5,355,107	5,958,537
流動負債合計	29,677,443	57,813,019
固定負債		
社債	1,100,000	1,100,000
社債(責任財産限定)	10,000,000	10,000,000
長期借入金	20,547,232	19,261,988
長期借入金(責任財産限定)	34,895,000	10,000,000
退職給付引当金	1,523,600	1,522,032
役員退職慰労引当金	687,027	629,556
資産除去債務	1,286,781	1,299,604
その他	7,930,354	7,817,736
固定負債合計	77,969,997	51,630,918
負債合計	107,647,440	109,443,937
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,018,656	33,018,656
資本剰余金	30,066,711	30,066,711
利益剰余金	1,749,120	2,338,200
自己株式	1,270,555	1,278,782
株主資本合計	63,563,932	64,144,785
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	651,213	18,419
その他の包括利益累計額合計	651,213	18,419
少数株主持分	71,644	55,321
純資産合計	64,286,790	64,218,526
負債純資産合計	171,934,230	173,662,464

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)
売上高	36,827,768	38,991,437
売上原価	21,625,730	22,508,978
売上総利益	15,202,037	16,482,459
販売費及び一般管理費	14,699,707	14,518,817
営業利益	502,330	1,963,641
営業外収益		
受取利息	31,695	28,146
受取配当金	87,075	125,581
負ののれん償却額	13,804	2,282
持分法による投資利益	-	10,553
その他	162,877	72,862
営業外収益合計	295,453	239,426
営業外費用		
支払利息	706,856	655,300
借入手数料	74,992	72,664
持分法による投資損失	21,369	-
その他	243,594	245,984
営業外費用合計	1,046,811	973,949
経常利益又は経常損失()	249,027	1,229,119
特別利益		
固定資産売却益	-	53,838
投資有価証券売却益	20,209	-
貸倒引当金戻入額	11,689	-
新株予約権戻入益	71,712	-
特別利益合計	103,610	53,838
特別損失		
固定資産売却損	11,794	-
固定資産除却損	7,371	8,597
投資有価証券売却損	-	6,550
投資有価証券評価損	1,771,526	92,159
環境対策費	47,217	-
災害による損失	722,594	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	494,513	-
特別損失合計	3,055,018	107,307
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	3,200,435	1,175,650
法人税、住民税及び事業税	118,888	114,553
法人税等調整額	793,746	67,237
法人税等合計	674,857	181,791
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失()	2,525,577	993,859
少数株主損失()	27,322	15,369
四半期純利益又は四半期純損失()	2,498,255	1,009,228

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	2,525,577	993,859
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	191,632	628,132
持分法適用会社に対する持分相当額	328	4,761
その他の包括利益合計	191,304	632,893
四半期包括利益	2,334,273	360,965
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,306,775	376,434
少数株主に係る四半期包括利益	27,497	15,468

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	3,200,435	1,175,650
減価償却費	1,974,889	2,046,121
のれん償却額	195,598	2,282
賞与引当金の増減額(は減少)	65,453	97,116
退職給付引当金の増減額(は減少)	20,946	1,568
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	22,980	57,471
貸倒引当金の増減額(は減少)	11,696	12,888
受取利息及び受取配当金	118,771	153,727
支払利息	706,856	655,300
持分法による投資損益(は益)	21,369	10,553
新株予約権戻入益	71,712	-
固定資産売却損益(は益)	11,794	53,838
固定資産除却損	7,371	8,597
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	494,513	-
投資有価証券売却及び評価損益(は益)	1,751,317	98,709
売上債権の増減額(は増加)	457,457	557,468
たな卸資産の増減額(は増加)	1,008,043	406,973
仕入債務の増減額(は減少)	190,446	219,584
その他	468,287	1,319,838
小計	505,949	5,659,628
利息及び配当金の受取額	120,166	160,708
利息の支払額	705,259	660,440
法人税等の支払額	318,838	314,625
法人税等の還付額	197,957	212,086
営業活動によるキャッシュ・フロー	200,024	5,057,358
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	334,903	183,757
定期預金の払戻による収入	431,453	285,303
現金及び預金(責任財産限定対象)の増減額(は増加)	258,219	252,200
信託預金(責任財産限定対象)の増減額(は増加)	55,658	68,174
有価証券の取得による支出	100,000	-
有形固定資産の取得による支出	926,731	3,563,530
有形固定資産の売却による収入	75,400	140,085
無形固定資産の取得による支出	31,067	201,265
投資有価証券の取得による支出	499,457	360,051
投資有価証券の売却による収入	66,744	16,500
貸付けによる支出	70,618	176
貸付金の回収による収入	125,710	143,954
長期前払費用(責任財産限定対象)の取得による支出	6,661,065	-
その他	42,805	18,474
投資活動によるキャッシュ・フロー	7,679,168	4,061,787

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	203,200	1,150,000
長期借入れによる収入	179,591	1,580,697
長期借入金の返済による支出	2,288,951	3,550,141
長期借入れ（責任財産限定）による収入	7,000,000	3,000,000
長期借入金（責任財産限定）の返済による支出	375,000	385,000
リース債務の返済による支出	85,137	92,003
自己株式の取得による支出	6,668	8,192
配当金の支払額	411,555	413,582
少数株主への配当金の支払額	854	854
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,214,625	1,280,923
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	3,664,567	2,276,493
現金及び現金同等物の期首残高	15,989,916	11,519,572
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	39,176	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	12,286,171	13,796,066

【追加情報】

当第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年8月31日)
保証債務 当社従業員の金融機関からの借入に対し、下記のとおり債務の保証を行っております。 住宅資金他 71,504千円	保証債務 当社従業員の金融機関からの借入に対し、下記のとおり債務の保証を行っております。 住宅資金他 63,908千円

(四半期連結損益計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)
販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。 人件費 4,680,127千円 貸倒引当金繰入額 10,077 賞与引当金繰入額 293,894 退職給付費用 272,773 役員退職慰労引当金繰入額 35,347	販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。 人件費 4,486,381千円 貸倒引当金繰入額 6,913 賞与引当金繰入額 273,301 退職給付費用 277,667 役員退職慰労引当金繰入額 47,961

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年8月31日現在) (千円) 現金及び預金勘定 12,679,211 預入期間が3ヶ月を超える定期預金 393,039 現金及び現金同等物 12,286,171	現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成24年8月31日現在) (千円) 現金及び預金勘定 13,721,198 取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券) 300,000 預入期間が3ヶ月を超える定期預金 225,131 現金及び現金同等物 13,796,066

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成23年3月1日至平成23年8月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年5月24日 定時株主総会	普通株式	415,006	3	平成23年2月28日	平成23年5月25日	利益剰余金

(注)配当金の総額には、連結子会社が所有する自己株式に係る配当金が含まれております。控除後の金額は414,562千円であります。

当第2四半期連結累計期間(自平成24年3月1日至平成24年8月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月30日 定時株主総会	普通株式	414,934	3	平成24年2月29日	平成24年5月31日	利益剰余金

(注)配当金の総額には、連結子会社が所有する自己株式に係る配当金が含まれております。控除後の金額は414,490千円であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成23年3月1日 至平成23年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	映像関連事業 (千円)	演劇事業 (千円)	不動産事業 (千円)	その他 (千円) (注)1	合計 (千円)	調整額 (千円) (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (千円) (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	23,169,188	7,678,504	3,285,031	2,695,044	36,827,768	-	36,827,768
セグメント間の内部売上高又は振替高	52,560	44,030	1,025,428	1,864,593	2,986,612	2,986,612	-
計	23,221,748	7,722,535	4,310,459	4,559,637	39,814,381	2,986,612	36,827,768
セグメント利益又は損失()	1,125,004	1,323,806	1,823,316	253,411	1,877,925	1,375,594	502,330

- (注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、舞台衣裳の製作・販売・賃貸、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、演劇舞台の大道具・小道具・音響の製作・販売、音楽著作権の利用開発・許諾、不動産の管理・清掃等であります。
2. セグメント利益又は損失()の調整額 1,375,594千円には、セグメント間取引消去11,694千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 1,387,288千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。
3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	映像関連事業 (千円)	演劇事業 (千円)	不動産事業 (千円)	その他 (千円) (注)1	合計 (千円)	調整額 (千円) (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (千円) (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	22,896,682	10,326,686	3,328,955	2,439,113	38,991,437	-	38,991,437
セグメント間の内部売上高又は振替高	26,074	53,860	860,350	1,768,262	2,708,548	2,708,548	-
計	22,922,757	10,380,546	4,189,306	4,207,375	41,699,985	2,708,548	38,991,437
セグメント利益	1,321,911	212,576	1,664,641	70,578	3,269,708	1,306,066	1,963,641

- (注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、舞台衣裳の製作・販売・賃貸、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、演劇舞台の大道具・小道具・音響の製作・販売、音楽著作権の利用開発・許諾、不動産の管理・清掃等であります。
2. セグメント利益の調整額 1,306,066千円には、セグメント間取引消去16,516千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 1,322,582千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()	18円18銭	7円35銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額() (千円)	2,498,255	1,009,228
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額()(千円)	2,498,255	1,009,228
普通株式の期中平均株式数(千株)	137,410	137,385

- (注) 1. 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額につきましては、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式は存在しないため記載しておりません。
2. 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年10月9日

松竹株式会社
取締役会 御中

新創監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 篠原 一馬 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 坂下 貴之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている松竹株式会社の平成24年3月1日から平成25年2月28日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成24年6月1日から平成24年8月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年3月1日から平成24年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、松竹株式会社及び連結子会社の平成24年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれておりません。